



Swiss Presence @ WORLD ROBOT SUMMIT 2018, Tokyo JAPAN

Summary

Switzerland was invited to present its advanced robotics technology and efforts towards social inclusion at the 1st World Robot Summit, which took place from October 17 to 21, 2018 in Tokyo, co-organized by Japan's Ministry of Economy, Industry and Trade (METI) and the New Energy and Industrial Technology Development Organization (NEDO). The Summit was a great success, with more than 75,000 visitors of diverse backgrounds ranging from high-level officials to school children attending over the five days.

Participants from Switzerland merited from the good exposure, broadening their network under the umbrella of the Swiss Pavilion, organized by the Science & Technology Office Tokyo, Embassy of Switzerland in Japan, together with maxon Japan. The delegation was also given the opportunity to present the CYBATHLON on stage at the Summit.

Two conferences were also organized by the Science & Technology Office Tokyo on this occasion. The first of which was "Dialogue towards an inclusive society: Switzerland and Japan" co-organized with IBM Japan. The second was a technology workshop, held in collaboration with Keio University's Faculty of Science & Technology. The Swiss and Japanese researchers were enthusiastic to meet their counterparts, leading the way to a fruitful and long-lasting collaboration between universities.

Switzerland at the 1st World Robot Summit WRS

Switzerland was invited by the WRS organizers initiated by the Japanese government to showcase its advanced technology; space for live demonstration was provided in a primary location inside the venue. Along with prominent Japanese companies such as Omron Corporation, the team HSR Enhanced from HSR Rapperswil (CYBATHLON 2016 wheelchair race winner) had the opportunity to present their latest technology, a powered wheelchair capable of climbing up and down stairs and moving smoothly around daily life obstacles.

During the five-day summit, team HSR Enhanced and its pilot Florian Hauser gave fifteen successful demonstrations, including ten in which the wheelchair went up and down a six-step staircase. The demonstrations were accompanied by explanations from Anni Kern of ETH Zurich on CYBATHLON, and from HSR Enhanced team leader Prof. Christian Bermes on the different functions of the prototype. Each time, they attracted a very large crowd of visitors from all over the world who asked many meaningful questions. In addition, Prof. Bermes gave separate technical presentations on the wheelchair, drawing the interest of many representatives from academia and industry. Kyoko Suzuki, Deputy Head of the S&T Office Tokyo, and Estelle Zufferey, working for the CYBATHLON Wheelchair Series Japan 2019 Project, translated the presentations into Japanese. The demonstrations underlined the high level of innovation and technology of Swiss Universities and education.



© HSR Rapperswil, Claudia Troger

Presentation of the powered wheelchair in "daily life setting" at the Swiss Pavilion

Just in front of the demo area, the Swiss Pavilion was set up to showcase the wheelchair in a daily life setting. It was designed with a home-like setting with living-room and dining-room areas, to send the message that assistive technologies should be useful for everyday life and to remind visitors that daily life can be full of obstacles for people with disabilities. For example, it is not always easy for a wheelchair user to fit under a table as wheelchairs cannot necessarily adapt to the different heights of various tables. The very warm and comfortable atmosphere of the Pavilion also allowed visitors to interact fully with our participants from ETH Zurich/CYBATHLON and the University of Applied Sciences Rapperswil (HSR Rapperswil). The Pavilion thus reflected Switzerland various efforts and initiatives towards more awareness on social inclusion, through the use of state-of-the-art assistive devices.



Presentation as invited speaker and VIP Guests

During the summit Dr. Lukas Jäger from ETH Zurich was one of the few exhibitors that was invited by the organizers to give a presentation in front of an audience of 200 academics, industry experts, students and officials. He took the stand as one of the two speakers in the session “Cutting-edge Robotics Technology Creating the Future and Social Change” alongside Prof. Yoshiyuki Sankai, Professor and Executive Research Director at Tsukuba University and CEO of Cyberdyne Inc.

The Pavilion also had the honor to welcome special guests such as the Swiss Ambassador to Japan Jean-François Paroz, Tokyo Vice-Governor Junko Inokuma and executives of Japanese companies. The Swiss Ambassador stayed for the demo and then had discussions with the Swiss visitors and Dr. Thomas Meyer, Head of the S&T Office Tokyo. A VIP guest who happened to be present, Mr. Tadahiro Kawada, President of Kawada Technologies, also joined the group.

Media Exposure

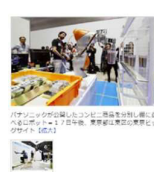
The Swiss Pavilion and its partners were highlighted in the media. The demo was notably covered by Japanese newspapers including Tokyo Shimbun, Sankei Biz, Sankei News, and a barrier free channel, and also mentioned numerous times on social medias (Instagram, Facebook, Twitter, YouTube). Prof. Christian Bermes from HSR Rapperswil was invited on Swiss Radio Zürichsee to talk about his team's experience in Tokyo.



Swiss Presence at WRS in Kyodo News

暮らしに役立つ最先端ロボット集結、障害者や家事をアシスト

2018.10.18 06:00



広告が Google により終了しました

暮らしや産業に役立つロボットを集めた展示会「ワールドロボットサミット2018」が17日、東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催されている。身近にロボットを取り入れる機会を広めようとする経済産業省が初めて開き、障害者や家事の手助けなど最先端の機能が披露されている。

展示会には91の企業や団体が参加した。早稲田大学の岩田浩康研究室は「第三の腕」と呼ばれ、人間とロボットが一体になって作業できる技術を出展。ロボットや専用の組織を装着して取りたい物に顔を向け、「ペットボトルを取って」などと呼び掛けるとその通りに動作する。腕が動きづらいうえに持ち上げたりと高難易度な作業ができるほか、料理中といった両手がふさがる際にも役立ち、実用化を目指している。

スイスの大学の研究室は「サイバロン」という障害者のスポーツに使われる電動車いすで、階段を上り下りする様子を実演した。開発者は「この技術を他の車いすに活用したい」と意気込んだ。在籍の職人を雇おうと、遠隔操作でロボットの動きを再現するロボットも注目された。

会場では、23カ国の16チームが参加するロボットの総競合も実施。パナソニックは遠隔操作技術などを使ってコンテストで最優秀賞に輝き、決まった順番に勝つ競合結果を公開した。

開会式は21日まで開催されている。

Swiss Presence at WRS in Sankei Biz

最先端の腕前 ロボット展示会 障害者・家事の助けに

2018.10.18 06:00

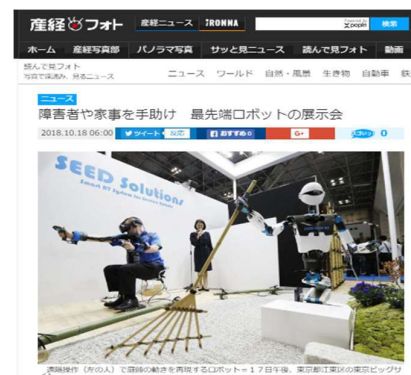
暮らしや産業に役立つロボットを集めた展示会「ワールドロボットサミット2018」が17日、東京ビッグサイト（東京都江東区）で始まった。身近にロボットを取り入れる機会を広めようとする経済産業省が初めて開き、障害者や家事の手助けなど最先端の機能が披露された。開催は二日間で、

展示会には九十一の企業や団体が参加した。早稲田大学の岩田浩康研究室は「第三の腕」と呼ばれ、人間とロボットが一体になって作業できる技術を出展。ロボットや専用の組織を装着して取りたい物に顔を向け、「ペットボトルを取って」などと呼び掛けるとその通りに動作する。腕が動きづらいうえに持ち上げたりと高難易度な作業ができるほか、料理中といった両手がふさがる際にも役立ち、実用化を目指している。

スイスの大学の研究室は「サイバロン」という障害者のスポーツに使われる電動車いすで、階段を上り下りする様子を実演した。開発者は「この技術を他の車いすに活用したい」と意気込んだ。在籍の職人を雇おうと、遠隔操作でロボットの動きを再現するロボットも注目された。

会場では、二十三日間のコンテストで参加するロボットの総競合も実施。パナソニックは遠隔操作技術などを使ってコンテストで最優秀賞に輝き、決まった順番に勝つ競合結果を公開した。

Swiss Presence at WRS in Tokyo Shimbun



岩田浩康（左の人）でロボットの動きを再現するロボット17日午後、東京ビッグサイトの展示会



暮らしや産業に役立つロボットを集めた展示会「ワールドロボットサミット2018」が17日、東京ビッグサイト（東京都江東区）で始まった。



展示会には91の企業や団体が参加した。早稲田大学の岩田浩康研究室は「第三の腕」と呼ばれ、人間とロボットが一体になって作業できる技術を出展。



スイスの大学の研究室は「サイバロン」という障害者のスポーツに使われる電動車いすで、階段を上り下りする様子を実演した。

Swiss Presence at WRS in Sankei News



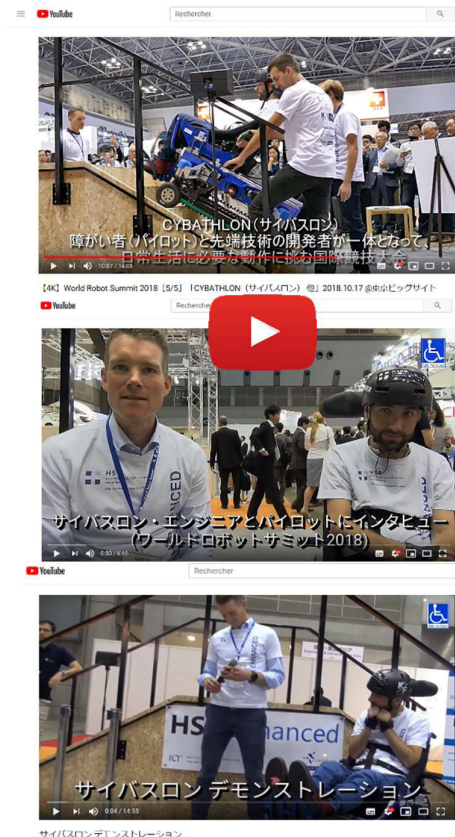
Prof. Christian Bermes at Zürisee Radio



Schweizerische Eidgenossenschaft
Confédération suisse
Confederazione Svizzera
Confederaziun svizra

Embassy of Switzerland in Japan
Science & Technology Office Tokyo

Some examples of the social media coverage:





Schweizerische Eidgenossenschaft
Confédération suisse
Confederazione Svizzera
Confederaziun svizra

Embassy of Switzerland in Japan
Science & Technology Office Tokyo

Swiss presence at WRS was also featured on the websites of the Embassy of Switzerland in Japan and of the Swiss Chamber of Commerce and Industry in Japan (SCCIJ) (see articles below), as well as on various Japanese websites.



ホーム サービス 会社概要 お問い合わせ 採用情報
デザインコンセプト百科

コンセプト - 2018/10/18

World Robot Summitへ出場感をみた

こんにちは。東京駅の工業デザインの株式会社ePです。

本日は、World Robot Summitへ出場感をみた についてです。

昨日、World Robot Summit会場ビッグサイト を拝見してまいりました。



▲WRS <http://worldrobotsummit.org/>

そこで、あるブースの前で素敵な光景を目の当たりにしましたので紹介します。

そのブースはスイスのETHによるサイバロン Cybathlonブースでしてデモンストレーションには非常に多くの人が集まっておりました。

サイバロン CybathlonとはETHが主導で、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。

▲サイバロン Cybathlonサイト <http://www.cybathlon.ethz.ch/>

会場展示ブースに並べて見ると、特別に秀でた展示ではありませんが、私共も含めて人々の注目はその展示ブースに注がれていました。



オーディエンスたちは、どんなデモだろう？うまくいくかな？うまくいったらいいな。

デモンストレーションが成功した時には、控えめな歓声のこもった拍手が自然と起こりました。

その声とつながったのは感動だったと思います。

私たちはあの場で、だんだんと気持ちが入っていったのだと思います。

単なる見学者ではなく、デモを共に進め心配したり応援したり成功を祝えたり自分もその場にジョインしていたのです。

*Article about Switzerland and
CYBATHLON at WRS on a Japanese blog*

ETH Zurich - 2018/10/18

ニュース

「技術ワークショップサイバロン編」シリーズ日本
2018年に「初めて」開催

2018年10月18日

2018年10月18日（金）は、東京ビッグサイトで開催された「World Robot Summit 2018」の会場内、サイバロン（Cybathlon）ブースで、サイバロン技術を用いたデモンストレーションが行われました。このイベントは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。

サイバロン技術を用いたデモンストレーションは、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会です。会場には、サイバロン技術を用いたロボット工学等を用いた国際大会が開催されました。



Long article about the Technology Workshop on Keio University Website

Many media inquiries followed the participation at the World Robot Summit, including from the Yomiuri Shimbun, the Nikkei Shimbun and NHK, all of whom are planning to cover Swiss excellence and innovation in the field of assistive devices.

Swiss Initiative invited to World Robot Summit organized by Japanese Government

Local news, 22.10.2018

The Swiss initiative CYBATHLON was invited to the World Robot Summit organized by the Japanese Government through the Science and Technology Office Tokyo of the Swiss Embassy.



From left: Lukas Jäger (Head of Competition & Partnerships, Cybathlon), Dr. Yulia Gusynina Paroz, Florian Hauser (Team HSR Enhanced's Pilot), Ambassador Jean-François Paroz, Anni Kern (Head of Strategy, Finances & Teams, Cybathlon) ©HSR Rapperswil, Claudia Troger

From October 17th to 21st, Tokyo Big Sight in Odaiba, Tokyo, was the venue of the "World Robot Summit". Organized by Japan's Ministry of Economy, Industry and Trade (METI) and the New Energy and Industrial Technology Development Organization (NEDO), the event, aimed at featuring and promoting robots and robotic technologies, provided a glimpse into the future of this fast developing industry.

The Swiss-invented CYBATHLON, an initiative by ETH Zurich that promotes the advancement of R&D of cutting-edge assistive devices for people with disabilities and also their social inclusion, was invited to perform demos at this government-led EXPO.

Additionally, the Science & Technology Office Tokyo of the Embassy of Switzerland in Japan organized a booth with a home-like atmosphere to emphasize the goals of CYBATHLON to be useful in daily life.

The demo and the booth space enabled representatives of the CYBATHLON and team HSR Enhanced from the University of Applied Sciences in Rapperswil to present their projects to an international audience. The CYBATHLON that aims not only to promote technological innovation but also the inclusion of people with disabilities into society, attracted the attention of numerous interested visitors from all over the world.

The CYBATHLON is a championship in which a person with disabilities (called "pilot") and a group of engineers come up with technical solutions to overcome problems the pilot encounters in his or her everyday life.

The team HSR Enhanced, led by Prof. Christian Bermes from the University of Applied Sciences in Rapperswil and consisting of a group of engineers and pilot Florian Hauser visiting the WRS, was the winner of the Powered Wheelchair Race, one of the six different disciplines at the first CYBATHLON held in 2016 in Zurich.

On the 18th of October, Ambassador Jean-Francois Paroz paid a visit to the Swiss booth at the "World Robot Summit" and watched the team showcase how pilot Florian is, thanks to their sophisticated wheelchair, able to climb up and down the

stairs. Following the demo, the Ambassador engaged in a roundtable discussion with Florian Hauser (pilot), Christian Bermes (Professor, University of Applied Sciences in Rapperswil), Lukas Jäger (Cybathlon, ETH Zurich), Tadahiyo Kawada (President, Kawada Technologies, Inc.) and Thomas Meyer (Head of Science and Technology Office Tokyo).

On the day before the "World Robot Summit" opened its doors, the 16th of October, a Dialogue towards an Inclusive Society – Switzerland and Japan was co-organized by the Science and Technology Office Tokyo and IBM Japan was held at the Sacred Heart Global Plaza, Sacred Heart University in Tokyo. The event attracted many highly interested visitors and culminated in a lively and engaging discussion.

Following the enthusiastic dialogue, Ambassador Paroz invited the presenters, Swiss delegation and other VIP guests to the Swiss Residence to spend a pleasant evening filled with exciting talks and exchange. Mr. Masatsugu Shimono, Vice Chairman of IBM Japan Ltd. gave a congratulatory speech after whom Mr. Takashi Hara, Director, Olympic and Paralympic Games Promotion Office, Citizens' and Cultural Affairs Bureau of Kawasaki City gave the toast.

To wrap up the week-long visit of the Swiss CYBATHLON delegation, a technology workshop was jointly organized by the Science and Technology Office Tokyo and the Faculty/Graduate School of Science of Keio University. The workshop was intended to offer participants to the CYBATHLON Wheelchair Series Japan 2019 to be held in May 2019 the opportunity to learn more about the race rules and to exchange ideas with 2016 champion team HSR Enhanced. The Japanese teams also presented their latest technological developments which raised the motivation among all participants.



Team HSR Enhanced (Cybathlon 2016 Wheelchair race winner). From left: Florian Hauser (Pilot), Sergio Miracco (Project Engineer), Christian Bermes (Project Responsible), Raphael Schröder (Project Engineer) ©HSR Rapperswil, Claudia Troger

November 11, 2018

Japan takes supporting role for Swiss Cybathlon

Tokyo (SCCIJ) – Cybathlon, an international competition invented and organized by ETH Zurich for disabled competitors and their bionic assistive technology, finds increasing support in Japan. A Cybathlon team attended the World Robot Summit on invitation of the government. Also, the Wheelchair Series, one of the six Cybathlon disciplines, will take place in May 2019 in Kawasaki. The Swiss Chamber of Commerce and Industry in Japan is one of the sponsors of this event. The Swiss Ambassador to Japan, Jean-François Paroz met with Norihiko Fukuda, Mayor of Kawasaki City, and Osamitsu Yamada, Chairman of the Kawasaki Chamber of Commerce and Industry, to congratulate the municipality for becoming the host town of the first official Cybathlon event to be held in Japan.

Participation in robot exposition

At the recent World Robot Summit 2018 in Tokyo, Swiss pilot Florian Hauser of team **HSR Enhanced**^[1] was demonstrating daily their stair-climbing wheelchair – live moderated in English and Japanese. The Cybathlon initiative was invited to perform demos at this government-led exposition. The Science & Technology Office Tokyo (STOT) of the Embassy of Switzerland in Japan organized a booth with a home-like atmosphere to emphasize the goals of Cybathlon to be useful in daily life.

Cybathlon is a championship for racing pilots with disabilities using advanced assistive devices, including robotic technologies. It was invented by Robert Riener, Professor at the Sensor-Motor Systems Lab, Department of Health Sciences and Technology at the Institute of Robotics and Intelligence Systems, ETH Zurich.

The demo and the booth space enabled representatives of the Cybathlon and team HSR Enhanced from the University of Applied Sciences in Rapperswil to present their projects to an international audience. In addition, its Head of Competition, Lukas Jäger, gave a talk about Cybathlon and announced the **Cybathlon Wheelchair Series**^[2] at Cultz Kawasaki, a new sports and cultural facility belonging to the city that is designed to be barrier-free in many ways.



Supported by Swiss embassy



Swiss team at World Robot Summit 2018 (© HSR Rapperswil, Claudia Troger)

Wheelchair event in Kawasaki

The Cybathlon Series in the discipline “Powered Wheelchair Race” is organized by the “Cybathlon Wheelchair Series Japan Organizing Committee” and supported by the Swiss Embassy. On May 5th, the competition of teams from Japan and all over the world will showcase their latest technical solutions to overcome the challenges in everyday life people with disability face. This wheelchair competition includes the original obstacle course of the Cybathlon and also follows its rules. In addition to the races there will be a scientific Symposium on May 6th.

Japan as a whole is advancing its efforts towards an inclusive society and the use of technology is one approach that is being promoted. The municipality of Kawasaki is promoting diversity through its Para Movement activities, very much compatible with the ideals of Cybathlon. “We believe that hosting a Cybathlon Series is another great step towards more inclusion,” ETH Zurich **said in a statement**^[3].

Such objectives are also in line with the Swiss Embassy’s purport to promote humanitarian efforts through international collaboration. Hence, Swiss Ambassador Paroz offered his best wishes and support to Mayor Fukuda, who expressed that hosting the Cybathlon Series is a pleasure and honor for the city.



(from right) Kawasaki Mayor Fukuda, Chairman Yamada, Swiss Ambassador Paroz, Dr. Meyer (Head, STOT) (© Embassy of Switzerland in Japan)

Japan teams at Cybathlon

Mr. Yamada of the Kawasaki Chamber will lead the organizing committee as chairman together with vice chairmen Prof. Kohei Itoh, Dean of the Faculty and Graduate School of Science of Keio University and Prof. Shuro Nakajima of Wakayama University. The latter participated with his team in the 2016 edition of Cybathlon and was awarded an amazing 4th place.

Three Japan teams had joined the first Cybathlon competition 2016 in Zurich. In his recent book “Robot – are they our enemies or our friends?”, he argues that the coming “fusion of machine and body” can become great physical support to people with disabilities, by helping them evolve in their everyday environment, as the Science & Technology Office of the Swiss Embassy **reported**^[4].

Text: SCCIJ with material of ETH Zurich and EDA; Photo Caption for top photo: (from left) Lukas Jäger (Head of Competition & Partnerships, Cybathlon), Dr. Yulia Gusynina Paroz, Florian Hauser (Team HSR Enhanced’s Pilot), Ambassador Jean-François Paroz, Anni Kern (Head of Strategy, Finances & Teams, Cybathlon) (© HSR Rapperswil, Claudia Troger)

[back](#)^[5]

URL of this site:

<http://www.sccij.jp/http://www.sccij.jp/news/overview/detail/article/2018/11/11/japan-takes-supporting-role-for-swiss-cybathlon/>

Links on this site:

- [1] <http://www.sccij.jp/https://www.hsr-enhanced.ch/>
- [2] <http://www.cybathlon.ethz.ch/road-to-2020/cybathlon-series/wheelchair-series-in-kawasaki-2019.html>
- [3] <http://www.cybathlon.ethz.ch/cybathlon-news/2018/10/cybathlon-experience-at-world-robot-summit.html>
- [4] <http://www.stofficetokyo.ch/cybathlon-featured-in-a-japanese-publication-about-robots-ai/>
- [5] <http://www.sccij.jp/news/overview/>



World Robot Summit 2018

With “Robotics for Happiness” as its slogan, the World Robot Summit aimed at showing to the general public and in an accessible way how robots can solve the real challenges faced in the society. It was constituted of two parts; the World Robot Challenge in which teams from all over the world competed in different categories, and the World Robot Expo, featuring exhibitors and their advanced robotic technologies. Switzerland took part in the latter. It was the first Summit organized under the initiative of the Japanese government, and will be followed by the World Robot Summit 2020, planned to be held in Aichi and Fukushima Prefectures.

Additional Exposures

Reception at the Swiss Ambassador's Residence

All participants, along with the closest partners for the project, were invited by the Ambassador of Switzerland to Japan, Mr. Jean-François Paroz, to a networking reception at his residence. The evening was full of lively discussions and new interactions between the Japanese and Swiss guests.

Mr. Masatsugu Shimono, Vice-Chairman from IBM Japan Ltd. and Mr. Takashi Hara, Director, Olympic and Paralympic Games Promotion Office, Citizens' and Cultural Affairs Bureau of Kawasaki City gave a short congratulatory remark following the welcome greeting by Ambassador Paroz. The President and Board Members of the Swiss Chamber of Commerce and Industry in Japan, supporters of the CYBATHLON Wheelchair Series Japan 2019, were also among the guests.

“Dialogue towards an inclusive society: Switzerland and Japan”

Before the opening of the World Robot Summit, the S&T Office Tokyo organized the conference on inclusive society in collaboration with IBM Japan. The dialogue featured Japanese and Swiss researchers developing creative initiatives and technology to help those with disabilities to overcome barriers in the society, especially in the workplace. Prof. Stephan Böhm, Director of Center for Disability and Integration of the University of St. Gallen, as well as Dr. Chieko Asakawa, IBM fellow and also member of the WRS executive board, were among the distinguished speakers.

The event attracted a very diverse audience from academia, government and industries. For this conference, a service based on speech recognition software generating automatic subtitles was provided to support people with hearing impairment or other kinds of disabilities to better understand the presentations.

Technology Workshop ahead of CYBATHLON Wheelchair Series Japan 2019

After the Summit, a Technology Workshop was co-organized by the S&T Office Tokyo and the Faculty of Science and Technology of Keio University. The invited speakers were professors from Japanese and Swiss Universities, who introduced their research on assistive devices and wheelchair prototypes being developed in order to participate in the CYBATHLON Wheelchair Series Japan 2019 in Kawasaki. Prof. Kohei Itoh, Dean of the Faculty of Science & Technology of Keio University, as well as Dr. Thomas Meyer, Head of the Science & Technology Office, Embassy of Switzerland in Japan, opened the workshop. Mr. Yoshihiro Kaiya, President of the Japan Barrier-free Association, was among the audience consisting of experts from industry, academia, NPOs and interested individuals.

Meetings with University Professors

The S&T Office Tokyo set up two additional meetings for Prof. Böhm who could unfortunately not stay until the WRS due to previous obligations. He visited Prof. Shinichiro Kumagaya of the University of Tokyo working on *tojisha kenkyu* (self-support research by people with disabilities) and Prof. Takanobu Nakajima of Keio University, whose research includes economics perspective on the welfare system, and employment of people with disabilities. Prof. Böhm and the Japanese professors identified areas that were of interest for both parties. Ideas for international conferences and follow-up meetings were brought up. Other guests from the delegation had the opportunity to visit Prof. Tomoyuki Takahata from the University of Tokyo, working on physical and visual sensors, as well as mobility robots developed in collaboration with a major industry partner.

Additionally, at Keio University, the delegation visited the center developing different powered wheelchairs for the CYBATHLON.



Illustrations



Demonstration of the wheelchair going up the stairs



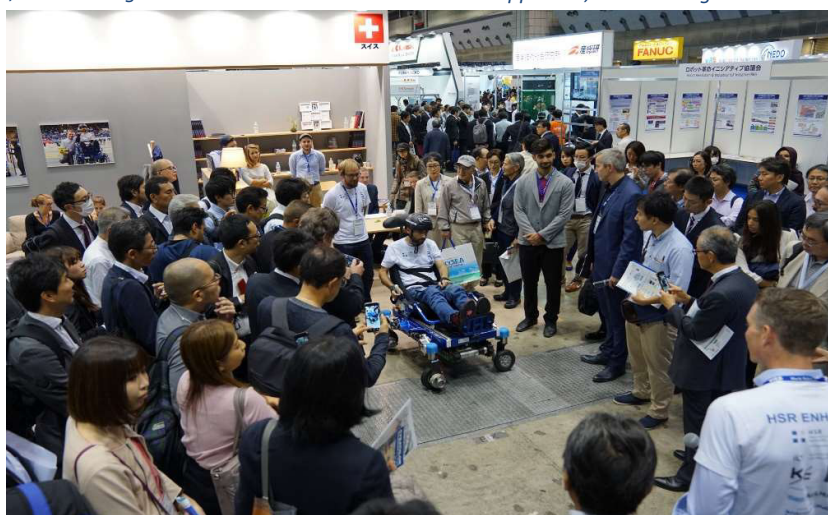
*The design of the Swiss Pavilion was a home-like setting
© HSR Rapperswil, Claudia Troger*



*Ambassador to Japan Jean-François Paroz visited the Pavilion
© HSR Rapperswil, Claudia Troger*



*Presentation by Dr. Lukas Jäger
© HSR Rapperswil, Claudia Troger*



*Mr. Florian Hauser going towards the stairs after showing to the crowd that his wheelchair
can properly fit under a table © HSR Rapperswil, Claudia Troger*



Schweizerische Eidgenossenschaft
Confédération suisse
Confederazione Svizzera
Confederaziun svizra

Embassy of Switzerland in Japan
Science & Technology Office Tokyo

Participants of the Swiss Pavilion @ WRS

• Federal Universities & University of Applied Sciences:

- **CYBATHLON by ETH Zurich**, is an international competition for people with disabilities who compete against each other in solving daily tasks, with the help of the latest assistive technologies. The CYBATHLON aims to serve as a platform for exchange between people with disabilities, technology providers and the public in order to raise awareness of the challenges faced by those with disabilities and to promote the development of assistive technologies.
- **HSR Enhanced** is the official CYBATHLON team of the HSR Hochschule für Technik Rapperswil. The project is initiated by the Institute for Lab Automation and Mechatronics (ILT). The team introduced their latest wheelchair 'Zed Evolution' and its different functions, including a caterpillar for stairs-climbing and a robot arm that can be used to open and close doors.

• Sponsors & Partners:



Schweizerische Eidgenossenschaft
Confédération suisse
Confederazione Svizzera
Confederaziun svizra

Embassy of Switzerland in Japan
在日スイス大使館
Science & Technology Office Tokyo
科学技術部



Switzerland.



• Special contributions to the Swiss Pavilion:

maxon Japan is a Swiss supplier of high-precision drive systems. The company supported World Robot Summit 2018 as an established industry partner of Japan and shared its booth space with the Swiss Pavilion, enhancing the exposure for both parties. It is also a long-time supporter of CYBATHLON; in addition to the 2016 competition, the leading motor company is a Presenting Partner of the Swiss-invented challenge in 2020. A delegation of executives from maxon motors HQ constituted of Dr. Karl-Walter Braun, Owner, Mr. Martin Zimmermann, Head of International Sales, and Mr. Marc Gottenkieny, Sales manager APAC, also visited the booth and exchanged with the Swiss visitors to WRS.

Karimoku Furniture Inc. is a Japanese maker of wooden furniture that works with Swiss design studio Big Game. The tables, chairs and sofa that were displayed were all designed by the three Lausanne-based designers who also teach at **ECAL**.

informel architects is a Swiss architecture studio established in 2017. Ms. Khuê Do-Tran with a Doctor's degree from **EPFL** who currently resides in Japan supervised the booth design.

Swiss Pavilion @ WRS, Organizer:

Science & Technology Office Tokyo
Embassy of Switzerland in Japan
5-9-12 Minami Azabu, Minato-ku, Tokyo 106-8589
<http://www.eda.admin.ch/tokyo>

Telephone +81 3 5449 8400
tok.science@eda.admin.ch



Testimonials

"This conference enabled me to learn from the great work on the topic of disability and inclusion which is done in Japan. It also provided me with a chance to extend my network and to meet great scholars at Japanese universities.

I'm very grateful for the chance to participate and hope that many fruitful research collaborations will result from this exciting conference and dialogue between Switzerland and Japan."

- Dr. Stephan Böhm, University of St Gallen

"Speaking on behalf of team HSR Enhanced, I want to say thank you for the exemplary professionalism plus kindness that STO showed from the first contact in February, during the event in October, and in the following debriefing phase. We as participants particularly appreciated the following things, among many others: clear communication, high flexibility [and] permanent availability of translators, who were of key importance to convey our message to a Japanese audience.

STO really took our perspective on the event, which included wanting to explain our mission to a broader public, ... the hints you gave us on whom to talk to, in order to make our case, were invaluable."

- Prof. Dr. Christian Bermes, University of Applied Sciences Rapperswil

"Many thanks to the Embassy of Switzerland for letting maxon Japan participating to the Swiss pavilion at World Robot Summit. Demonstration of Cybathlon wheelchair generated lots of interest from Japanese and international visitors. We could hand out more catalogues and related brochures than expected. We believe that the event was successfully done."

- maxon Japan Corporation

"The 'Dialog for an inclusive society: Switzerland and Japan' was a very enriching event. Thank you very much for providing an information ensuring language service. It was very easy to understand I sincerely hope that there will be more of such conferences to enable us to move forward step by step towards the realization of an inclusive society."

- E-mail from an NPO participant of the "Dialogue towards social inclusion: Switzerland and Japan"

Examples of Distributed Materials

Demo Pamphlet

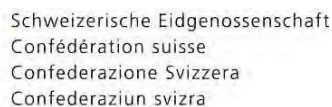
"A wheelchair going up and down stairs?"



Demo Poster (Bilingual)

A1 Poster made by WRS organizers





Invitations to the World Robot Summit (Bilingual): *the Swiss Pavilion's presence and related events are highlighted in red*

[illegible]



Additional Exposure: «Dialogue towards an inclusive society: Switzerland and Japan»

**共生社会へのダイアログ
日本とスイス
2018年10月16日**

**Dialog towards an Inclusive Society
Switzerland and Japan
Oct. 16, 2018**



University of the Sacred Heart, Britt Memorial Hall
聖心女子大学 ブリット記念ホール
Japanese-English interpretation/日英同時通訳
No entry fees. Pre-registration is required
入場無料、事前登録をお願いいたします。
Registration -> www.stofficetokyo.ch/diversity
Organized by the Embassy of Switzerland in Japan and IBM Japan

**Dialog towards an Inclusive Society
Switzerland and Japan
Tuesday October 16, 2018**

14:30	Doors Open	
15:00	Greetings	Head, Science & Technology Office Tokyo Embassy of Switzerland in Japan
15:05	Towards Democratization of Science and Medicine - Introduction to Tojisha-Kenkyu (user-led research)	Shinichiro Kumagaya, Director, Disability Services Office Associate Professor, Research Center for Advanced Science and Technology, Dept. of Tojisha-Kenkyu, The University of Tokyo
15:30	Keynote: Accessible World with AI	Chieko Asakawa, IBM Fellow, IBM Watson Research Center IBM Distinguished Service Professor, Carnegie Mellon University
16:15	Economic Advantages of Workplace Inclusion of People with Disabilities - Drawing from Case Studies in Switzerland and Germany	Stephan Böhm, Director, Center for Disability and Integration Associate Professor of Management, University of St. Gallen
16:40	Break	
17:00	Case Study: Supporting Upper Limb Amputees through Community Activities	Genta Kondo, Agency Lab. Director, Catalyst, Mission Arm Japan
17:15	Case Study: Personal Experience of Working in Switzerland and Impact of CYBATHLON	Christian Bermes, Professor, ILT Institute for Lab Automation and Mechatronics University of Applied Sciences Rapperswil
17:35	How CYBATHLON is Expanding (Employment) Opportunities for People with Disabilities	Florian Hauser, Pilot of team HSR Enhanced, CYBATHLON 2016 Winner Lukas Jäger, Competition & Sponsoring, CYBATHLON, ETH Zurich
17:50	Case study: Efforts towards Employment of People with Disabilities at a Swiss Company	Masahi Funasho, President, Maxon Japan
18:00	Q&A Session	

No entry fees - Japanese-English interpretation. Pre-registration is required
Registration -> www.stofficetokyo.ch/diversity
Organized by the Embassy of Switzerland in Japan and IBM Japan
Cooperation: CYBATHLON, Maxon Japan, HSR Rapperswil, Sacred Heart Institute for Sustainable Futures
Contact: Science & Technology Office Tokyo, Embassy of Switzerland in Japan
tok.sciencetokyo@eda.admin.ch

- 15:00 Greetings
Thomas Meyer, Head, Science & Technology Office Tokyo, Embassy of Switzerland in Japan
- 15:05 Towards Democratization of Science and Medicine - Introduction to Tojisha-Kenkyu (user-led research)
Shinichiro Kumagaya, Director, Disability Services Office
Associate Professor, Research Center for Advanced Science and Technology, Dept. of Tojisha-Kenkyu, The University of Tokyo
- 15:30 Keynote: Accessible World with AI
Chieko Asakawa, IBM Fellow, IBM Watson Research Center IBM Distinguished Service Professor, Carnegie Mellon University
- 16:15 Economic Advantages of Workplace Inclusion of People with Disabilities
- Drawing from Case Studies in Switzerland and Germany
Stephan Böhm, Director, Center for Disability and Integration
Associate Professor of Management, University of St. Gallen
- 16:40 Break
- 17:00 Case Study: Supporting Upper Limb Amputees through Community Activities
Genta Kondo, Agency Lab. Director, Catalyst, Mission Arm Japan
- 17:15 Case Study: Personal Experience of Working in Switzerland and Impact of CYBATHLON
Christian Bermes Professor, ILT Institute for Lab Automation and Mechatronics. University of Applied Sciences Rapperswil
Florian Hauser Pilot of team HSR Enhanced, CYBATHLON 2016 Winner
- 17:35 How CYBATHLON is Expanding (Employment) Opportunities for People with Disabilities
Lukas Jäger, Competition & Sponsoring, CYBATHLON, ETH Zurich
- 17:50 Case study: Efforts towards Employment of People with Disabilities at a Swiss Company
Masahi Funasho President, maxon Japan
- 18:00 Q&A Session



Mr. Genta Kondo and Team HSR Enhanced



Dr. Stephan Böhm from the University of St. Gallen and Dr. Shinichiro Kumagaya from the University of Tokyo



Additional Exposure: «Technology Workshop – Towards the CYBATHLON Wheelchair Series Japan 2019»

**技術ワークショップ
サイバロン車いすシリーズ日本2019に向けて**
2018年10月22日(月)14:00

13:30 開場
14:00 開会
伊藤公平 慶應義塾大学 理工学部長
マイヤー・トーマス スイス大使館 科学技術部 部長

14:05 サイバロン2020: ルールの紹介と解説
イェーガー・ルーカス スイス連邦工科大学 ETH Zurich
サイバロン 総務委員会 (競技・協賛担当)

14:35 サイバロン2016の教訓と2020に向けた新技術の紹介
ベルメス・クリスティアン ILT Institute for Lab Automation and Mechatronics
University of Applied Sciences Rapperswil

15:05 サイバロン2020への大規模チームの挑戦
セウ・ヘー・ジョン 大阪電気通信大学 工学部電子機械工学科 教授

15:20 千歳工業大学チームの紹介
青木 隆夫 千歳工業大学
先進工学部未来ロボティクス学科 准教授

15:35 コーヒーブレイク

16:00 エスカレーターと低床バスに対応する車椅子型モビリティロボット
高田智之 東京大学 大学院情報理工学系研究科 講師

**16:15 慶應義塾車いす開発プロジェクト へ高い走行性能と安全性を
両立するスマート電動車いすを目指して〜**
石上 仁 慶應義塾大学 理工学部機械工学科 准教授

16:30 質疑応答・ディスカッション

17:00 慶應義塾大学マニュファクチャリングセンター見学

17:30 交流会

慶應義塾大学上ヶ丘キャンパス厚生棟大会議室
入場料: 無料、日本語・英語訳あり、事前登録必須
ご登録: stoffice@tokyo.ch/technology

お問い合わせ: スイス大使館 科学技術部
tok.science@eda.admin.ch Tel: +81-3-5449-8400

**Technology Workshop
Towards the CYBATHLON Wheelchair Series Japan 2019**
Monday, October 22, 2018 - 14:00

13:30 Doors open
14:00 Greetings
Kohei Itoh, Dean, Faculty of Science & Technology, Keio University
Thomas Meyer, Head, Science & Technology Office, Embassy of Switzerland in Japan

14:05 CYBATHLON: explanation of the new rules and criteria for participation
Lukas Jäger, Competition & Sponsoring, CYBATHLON, ETH Zurich

14:35 Lessons from CYBATHLON 2016 and presentation of future technology developments
Christian Bermes, Professor, ILT Institute for Lab Automation and Mechatronics
University of Applied Sciences Rapperswil

15:05 Challenge of TEAM OECU to the CYBATHLON 2020
Seong-Hee Jeong, Professor, Dept. of Electro-Mechanical Engineering
Faculty of Engineering, Osaka Electro-Communication University

15:20 Introduction of Chiba Institute of Technology Team
Takeshi Aoki, Associate Professor, Dept. of Advanced Robotics,
Chiba Institute of Technology

15:35 Coffee break

16:00 Wheelchair Type Mobility Robot Adapting to Escalators and Low-Floor Buses
Tomoyuki Takahata, Assistant Professor, Dept. of Mechano-Informatics,
Graduate School of Information Science and Technology, The University of Tokyo

16:15 Keio Fortississimo - Towards Smart Powered Wheelchair for High Mobility and Safety
Genya Ishigami, Associate Professor, Dept. of Mechanical Engineering,
School of Integrated Design Engineering, Keio University

16:30 Q&A / Discussion

17:00 Tour of Keio's Manufacturing Center

17:30 Networking

16th Bldg A-Kosei, Big Conference Room, Yagami Campus, Keio University
No entry fees, English-Japanese interpretation available. Pre-registration required.
Registration: stoffice@tokyo.ch/technology

Science & Technology Office, Embassy of Switzerland in Japan
tok.science@eda.admin.ch Tel: +81-3-5449-8400

- 14:00 Greetings
Kohei Itoh, Dean, Faculty of Science & Technology, Keio University
Thomas Meyer, Head, Science & Technology Office Tokyo, Embassy of Switzerland in Japan
- 14:05 CYBATHLON: explanation of the new rules and criteria for participation
Lukas Jäger, Competition & Sponsoring, CYBATHLON, ETH Zurich
- 14:35 Lessons from CYBATHLON 2016 and presentation of future technology developments
Christian Bermes, Professor, ILT Institute for Lab Automation and Mechatronics
University of Applied Sciences Rapperswil
- 15:05 Challenge of TEAM OECU to the CYBATHLON 2020
Seong-Hee Jeong, Professor, Dept. of Electro-Mechanical Engineering, Faculty of
Engineering, Osaka Electro-Communication University
- 15:20 Introduction of Chiba Institute of Technology Team
Takeshi Aoki, Associate Professor, Dept. of Advanced Robotics, Chiba Institute of
Technology
- 15:35 Coffee break
- 16:00 Wheelchair Type Mobility Robot Adapting to Escalators and Low-Floor Buses
Tomoyuki Takahata, Assistant Professor, Dept. of Mechano-Informatics,
Graduate School of Information Science and Technology, The University of Tokyo
- 16:15 Keio Fortississimo - Towards Smart Powered Wheelchair for High Mobility and Safety
Genya Ishigami, Associate Professor, Dept. of Mechanical Engineering, School of Integrated
Design Engineering, Keio University
- 16:30 Q&A / Discussion
- 17:00 Tour of Keio's Manufacturing Center



Dr. Thomas Meyer from S&T Office Tokyo gave the opening speech © Keio University



Prof. Christian Bermes from HSR Rapperswil introduced his team's latest wheelchair prototype © Keio University



Dr. Lukas Jäger from ETH Zurich during the Q&A session © Keio University